

ドルフィンの形と色



ドルフィンの形は昨年のスーパーゲンボウと違い、前が厚くそこから後部にかけて細く薄くなっていきます。この滑らかな流線形のラインがより躍動感を生み、サーキット上を時速60 km以上（今回、最高速度94 kmを記録）で走った時には、水中を優雅に飛び回るドルフィンがいるかの如くにスピード感があります。空気抵抗を少なくしスーパーゲンボウよりも、さらに実用車に近づいた姿でスタイリッシュにデザインされています。

さて、高等部のドルフィンは、なぜ“黄色”なのでしょうか。

初代高等部ソーラーカーは、「イエローコスモス」という名前でその名の通り黄色のコスモスが描かれていました。つまりこの黄色は、まさにそのイエローコスモスの遺伝子を引き継いだ二世代に渡るソーラーカーなのだと、色彩担当の中村慎一女子短期大学助教授は話します。

実際鈴鹿と秋田大会のレースでは、その走りを見事に美しく、脚光を浴びた目立つソーラーカーとしてアピールできました。

玉川ドルフィンの黄色も、生命を育む太陽色として環境テクノロジーを匂わせた玉川の創造物なのです。